

家庭、技術・家庭 生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育む授業づくり

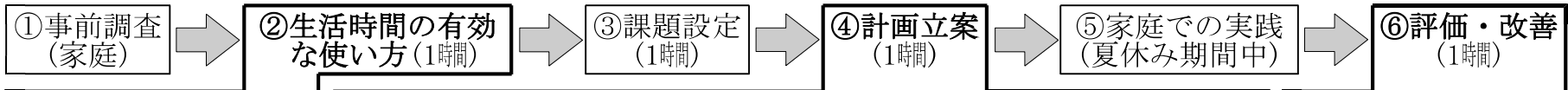
家庭科、家庭分野においては、課題解決のために必要な知識及び技能を習得し、それらを活用して実践し、その結果を評価・改善するという問題解決的な学習を展開する中で、児童生徒が課題を解決できた達成感や実践する喜びを味わい、更によりよい生活にするための新たな課題を見付け、家庭や地域での次の実践につなげることが大切です。

指導事例 小学校第6学年 A家族・家庭生活 (2) 家庭生活と仕事

[本題材に関連を図る学習内容] A「団らん」、B「調理・片付け」「清掃」、C「買い物」

[題 材 名] 「チャレンジしよう家庭の仕事～家庭の仕事計画を見直そう～」(4時間)

[題材の目標] 生活時間の有効な使い方について理解し、家庭の仕事の計画を立て、工夫して実践することができる。



②指導のポイント

◆**家族の在り方について**問うことで、児童から「助け合う」や「仲よくする」などの発言を引き出し、生活の営みに係る見方・考え方に示される「協力」などの視点に着目できるようにします。

◆**事前調査を基にしながら、家庭には生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることや、自分の生活時間の使い方を工夫することで、家庭生活が円滑に営まれることに気付くことができるようにします。**



「調理・片付け」を計画している児童で編成したグループが、家庭での実践計画について意見交流している場面です。「協力」及び「持続可能な社会の構築」の二つの視点を基に、生活の営みに係る見方・考え方を働かせている姿の例を示しています。

T: 家庭で実践する仕事を紹介し合い、**家族の生活をよりよくするために工夫できることがないか**意見交流をしてください。

詠: 家族のためにどのような仕事に取り組みますか。

S1: 夕食後の食器洗いを、お母さんと一緒にします。

詠: どうして食器洗いをすることにしたのですか。

S1: 家事の負担を減らしてあげたいからです。



詠: 食器洗い以外にも家族のためになる工夫はありませんか。

S2: 少しでも家事の負担を減らすために配膳を手伝うとよいです。

S3: なるほど。協力すれば仕事が早く終わるから、家族で団らんもできると思います。

S1: 片付け後に家族にお茶をいれてあげようと思います。

T: (机間指導をしながら) 以前に「環境に配慮した後片付け」について学習しましたね。食器を洗う時に何か工夫できそうなことなどありませんか。

S2: 食器の油污れなどを古い布で拭き取ると、洗剤の量を少なくして洗うことができると思います。



④指導のポイント

◆**本題材の第1時に着目させた「見方・考え方」に示される視点を、見通しをもつ場面等で児童に想起させた上で、生活をよりよくすることを意識して既習事項や生活経験と関連付けながら検討できるようにします。**